

平成20年11月の地震活動及び火山活動について

[地震活動]

震度5弱以上を観測した地震及び津波を観測した地震はありませんでした。

全国で震度1以上を観測した地震の回数は103回、日本及びその周辺におけるM4.0以上の地震の回数は61回でした。

国土地理院のGPS観測結果では、全国の地殻変動について特に目立った変動は見られません。

震度3以上を観測するなどの主な地震活動の概況は別紙1のとおりです。また、世界の主な地震は別紙2のとおりです。

[火山活動]

雌阿寒岳では、9日から12日にかけて、体に感じない程度の小さな火山性地震が増加しました。16日および17日には連続的な火山性微動が発生するなどしたことから、火山活動が高まったと判断し、17日に火口周辺警報（火口周辺危険）を発表し、噴火予報（平常）から火口周辺警報（火口周辺危険）に引き上げました。その後、18日及び28～29日に、ポンマチネシリ96-1火口及び第4火口でごく小さな噴火が発生しました。

口永良部島では、GPSによる地殻変動観測で、新岳火口浅部の膨張を示す変化が続くなど、依然として火山活動が高まった状態となっており、火口周辺警報（噴火警戒レベル3、入山規制）が継続しています。

浅間山では、火山性地震がやや多いことなどから、依然として火山活動が高まった状態が続いており、火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）が継続しています。

桜島では、南岳山頂火口でごく小規模な噴火が2回発生しました。昭和火口で噴火は発生しませんでした。桜島では、火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）が継続しています。

三宅島では、多量の火山ガスの放出が続いており、火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）が継続しています。

諏訪之瀬島では、小規模な噴火が時々発生しました。火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）が継続しています。

その他の火山の活動状況に特段の変化はありません。

日本の主な火山活動の概況は別紙3のとおりです。また、世界の主な火山活動は別紙4のとおりです。

注1：噴火警戒レベルには、レベル毎に防災機関等の行動がキーワードとして示されており、導入にあたっては、噴火警戒レベルの活用が地域防災計画等に定められることが条件となります。

注2：国土地理院のGPSによる地殻変動観測については、国土地理院ホームページの記者発表資料「平成20年10月～11月の地殻変動について」を参照願います。

<http://www.gsi.go.jp/WNEW/PRESS-RELEASE/2008/goudou1205.html>

注3：気象庁の地震活動資料には、防災科学技術研究所や大学等関係機関のデータも使われています。

注4：地震活動及び火山活動の詳細については、地震・火山月報(防災編)平成20年11月号(平成20年12月末頃に刊行及び気象庁ホームページ掲載予定)をご覧ください。

注5：平成20年12月の地震活動及び火山活動については、平成21年1月7日に発表の予定です。